



2023年2月14日

各位

会社名株式会社ヘリオス
代表者名代表執行役社長 CEO 鍵本忠尚
(コード番号: 4593 東証グロース)
問合せ先 執行役 CFO リチャード・キンケイド
(TEL: 03-4590-8009)

金融収益及び金融費用の計上 並びに特別損失の計上(個別決算)に関するお知らせ

当社は、2022年12月期(2022年1月1日から2022年12月31日)において、下記のとおり金融収益及び金融費用を計上しましたので、お知らせいたします。また、個別決算において特別損失を計上しましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 金融収益の内容

2022年12月期第3四半期連結累計期間(2022年1月1日から2022年9月30日)において、276百万円を金融収益に計上しておりましたが、当第4四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日)に有価証券評価益89百万円が発生したこと等により、2022年12月期において、346百万円を金融収益に計上いたしました。主な内訳は、デリバティブ評価益^{※1}183百万円、有価証券評価益162百万円の計上であります。

※1 デリバティブ評価益

デリバティブ評価益とは、当社が2019年7月に海外投資家向けに発行しました転換社債型新株予約権付社債の新株予約権相当額であるデリバティブ負債を公正価値で評価していることにより発生する評価益であり、非現金損益項目です。なお、当第3四半期累計期間において、当該転換社債型新株予約権付社債は償還しております。

2. 金融費用の内容

2022年12月期第3四半期連結累計期間において、金融費用444百万円を計上しておりましたが、当第4四半期連結会計期間に外部投資家持分への損益振替額^{※2}37百万円(第3四半期連結累計期間においては金融収益で19百万円計上)、社債利息^{※3}28百万円、及び支払利息10百万円が発生したこと等により、2022年12月期において、500百万円を金融費用に計上いたしました。主な内訳は、社債利息^{※3}375百万円、新株予約権評価損53百万円、支払利息44百万円及び外部投資家持分への損益振替額^{※2}18百万円の計上であります。

※2 外部投資家持分への損益振替額

外部投資家持分への損益振替額とは、当社の連結子会社である Saisei Bioventures, L.P. の損益を Saisei Bioventures, L.P.に出資している当社以外のリミテッド・パートナーに対して振替計上しているものです。Saisei Bioventures, L.P.は、ゼネラル・パートナーであり、当社の連結子会社である Saisei Capital Ltd.により設立されたリミテッド・パートナーシップです。

※3 社債利息

2022年12月期に計上した社債利息375百万円のうち、335百万円は償却原価法により計上した費用です。※1と同様に2020年12月期第1四半期より導入している国際会計基準(IFRS)の規則に従い計上しております非現金支出費用です。

日本基準においては、転換社債の発行額を全額負債として計上し、発行手数料を費用として計上していましたが、国際会計基準(IFRS)においては、転換社債の発行額から発行手数料を控除した手取り収入額を、一定の基準に基づいて負債と資本とに区分して計上します。その結果、転換社債の額面金額と負債として計上される金額とに差異が生じるため、その差額を社債利息として每期償却(費用化)しております。

3. 特別損失の内容(個別決算)

2022年12月期の個別決算において、当社の連結子会社である株式会社器官原基創生研究所について、2022年12月末における株式会社器官原基創生研究所の実質価額が著しく低下したことから、同社株式の簿価を実質価額(持分純資産)相当まで減額し、関係会社株式評価損43百万円を計上いたしました。また、当社が保有する投資有価証券のうち、時価が著しく低下した株式について損失処理を行い、投資有価証券評価損3,042百万円を計上いたしました。

なお、関係会社株式評価損は、連結決算においては消去されるため、連結業績への影響はありません。また、投資有価証券評価損についても、国際会計基準(IFRS)ではその他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類している株式から生じたものであり、連結業績に与える影響はありません。

4. 業績に与える影響について

上記の金融収益、金融費用及び特別損失(個別決算)の業績に与える影響につきましては、本日公表の「2022年12月期決算短信〔IFRS〕(連結)」をご参照ください。

以上